

NEWS **絆**

東北生産性本部

「自民党総裁選の行方と今後の政局展望」**2024年度 仙台シンポジウム 9月例会開催**

2024年度 仙台シンポジウム9月例会は、政治アナリスト 伊藤 惇夫 氏 を講師にお迎えし、約60名の参加を得て開催いたしました

■例会（2024年9月4日開催）**講師：政治アナリスト 伊藤 惇夫 氏****（プロフィールなど）**

1948 年生まれ、神奈川県葉山町出身。学習院大学法学部卒業後、出版社へ就職。1973 年、時の総理・総裁田中角栄に誘われ自由民主党本部事務局に勤務する。自民党では広報を担当し、1989 年からは自民党政治改革事務局主査補として政治改革大綱を取りまとめる。

約 20 年間の自民党本部勤務を経て 1994 年末から新進党総務局。1996 年 12 月から太陽党、1998 年 1 月に民政党、4 月から民主党の事務局に勤務する。太陽党以後は、いずれも事務局長を務めた。新党の結成に次々と立ち会ったことから「新党請負人」の異名を持つ。

【ご講演要旨】**「自民党総裁選の行方と今後の政局展望」**

国民が関心を寄せている自民党総裁選の行方について、現職総理の総裁選不出馬の経緯などを交えながら公演をいただきました。



12名の総裁選立候補者予定者がいるが、最終的には推薦人の確保も難しく9名になるだろう。

候補者間の討論が取れないため、一般の方には政策が見えにくく、論戦での強さも見抜けない。史上初の立候補者数となったのは、派閥の縛りが緩んだことと現職の総裁が不出馬を表明したことが大きな要因と立候補者が多くなった問題点や背景などを話されました。

また、独自の目線で、立候補者を4つに分類し、分類と候補者の特徴点などを解説し、総裁選の行方や解散・総選挙の時期についての予測、一方で党内で流行している『刷新感』への感想を述べて、裏金問題への対応や過去のリクルート事件の対応との違いなどをお話いただきました。

小選挙区比例制度の導入の問題や日本経済・政策の展望と危機、野党再生の可能性などについても触れ、伊藤氏の視点で幅広くご講演いただきました。



以上、大変有意義なご講演ありがとうございました。